

一般 有機フッ素化合物PFASについて

渡辺 修（みどり21）



永遠の化学物質。非常に強固で分解されにくい有機フッ素化合物の総称でPFASは広範な総称となります。また、環境中に放出されると分解が著しく難しく、地下水や水源、土壌、食品などに広がるのが懸念されています。生物蓄積性を持ち、生態系や健康に悪影響を及ぼす可能性があるとされています。

ますか。

A PFASを製造過程で使用する可能性があった業種につきましては、有機フッ素化合物の製造・使用の実績がある施設などがPFASの排出源となり得る施設と言われていますが、具体的には把握しておりません。

Q ぜひとも周知を行ってほしいです。菊川は大丈夫ですよという。

A 引き続き県や国からの情報等に注視するのが基本の考えで、市民に正しい情報を正しいタイミングでお知らせすることが必要だと思っております。



一般 不登校児童生徒の支援

須藤 有紀（みどり21）



Q 不登校の要因分析及び不登校が長期化する子どもの傾向と対策は。

A 不安の傾向が見られる児童生徒の割合が多い。児童生徒自身が抱える不安に寄り添う相談支援や居場所への支援を継続しつつ、家庭支援へのアプローチが必要である。関係機関との連携により、ケース会議の実施や相談支援、家庭訪問などの個別の対応をしている。

Q 一斉休校や黙食等、コロナウイルス対策による不登校増加の影響について、現状と考えは。

A R2年度の新規不登校児童生徒数は18人、R3年度は50人と、大きく増加した。十分なコミュニケーションが取れず、人間関係の構築が不十分となったこと、学びが断続的になったりICT機器などによる間接的なものになったりしたことなどが考えられる。

Q 学校に相談することに抵抗を感じる保護者、子どもの声を基に、

民間施設の情報提供が推奨されているが現状は。

A まずは適応指導教室を紹介するが、それ以外に連携を図っている民間6施設と静岡県総合教育センターあすなろを紹介している。

Q 不登校の子ども達に対して、市の方針や考えは。

A 登校という結果のみを目標としないという考え。いくつになっても勉強する機会はずっとある。つらい思いしているときは本当につらくなってしまうが、将来必ずチャンスがある。



Q 県内で菊川市のみが要監視物質の調査点に指定された事実は重大であり、過去に菊川市においてPFASを使用した可能性があった業種と当時の状況を把握してい